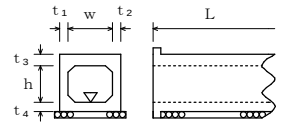
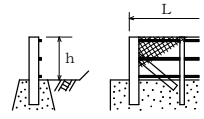
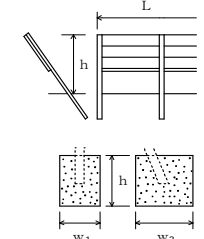
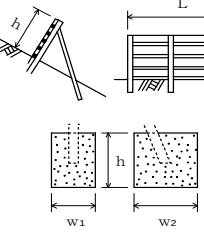
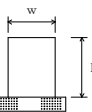
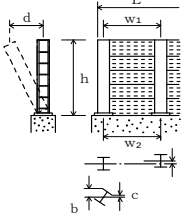


編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
10 道路 編	1 道路 改良	3 工場 製作 工	2		遮音壁支柱製作工	部材	部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$
10 道路 編	1 道路 改良	9 カル バ ー ト 工	6		場所打函渠工	基 準 高 ∇		± 30
						厚さ $t_1 \sim t_4$		-20
						幅 (内法) w		-30
						高 さ h		± 30
						延長 L	$L < 20\text{m}$	-50
							$L \geq 20\text{m}$	-100
10 道路 編	1 道路 改良	11 落石 雪害 防止 工	4		落石防止網工	幅 w		-200
						延 長 L		-200
10 道路 編	1 道路 改良	11 落石 雪害 防止 工	5		落石防護柵工	高 さ h		± 30
						延 長 L		-200

測 定 基 準			測 定 箇 所		摘 要
図面の寸法表示箇所で測定。					10-1-3-2
両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所で測定。					10-1-9-6
1 施工箇所毎					10-1-11-4
施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1 箇所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。					10-1-11-5
1 施工箇所毎					

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
10 道路 編	1 道路 改良	11 落石 雪害 防止 工	6		防雪柵工	高 さ h		±30
						延 長 L		-200
						基礎	幅 w ₁ , w ₂	-30
							高 さ h	-30
10 道路 編	1 道路 改良	11 落石 雪害 防止 工	7		雪崩予防柵工	高 さ h		±30
						延 長 L		-200
						基礎	幅 w ₁ , w ₂	-30
							高 さ h	-30
						アン カ ー 長 ℓ	打 込 み ℓ	-10%
							埋 込 み ℓ	-5%
10 道路 編	1 道路 改良	12 遮音 壁工	4		遮音壁基礎工	幅 w		-30
						高 さ h		-30
						延 長 L		-200
10 道路 編	1 道路 改良	12 遮音 壁工	5		遮音壁本体工	支柱	間隔 w ₁ , w ₂	±15
							ず れ a	10
							ねじれ b-c	5
							倒 れ d	h×0.5%
						高 さ h		+30, -20
						延 長 L		-200

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1 施工箇所毎 基礎 1 基毎		10-1-11-6
施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1 施工箇所毎 基礎 1 基毎 全数		10-1-11-7
施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1 施工箇所毎		10-1-12-4
施工延長 5 スパンにつき 1 箇所 1 施工箇所毎		10-1-12-5

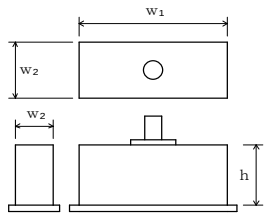
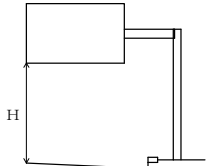
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均($\bar{X}_{10}$)
							中規模以上	小規模以下	中規模以上
10 道 路 編	2 舗 装	4 舗 装 工			歩道路盤工 取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工	基準高▽	± 50		—
						厚 さ	t < 15cm	-30	-10
							t ≥ 15cm	-45	-15
						幅	-100		—
10 道 路 編	2 舗 装	4 舗 装 工			歩道舗装工 取合舗装工 路肩舗装工 表層工	厚 さ	-9		-3
						幅	-25		—

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は片側延長40m毎に1箇所の割で測定。 厚さは、片側延長200m毎に1箇所掘り起こして測定。 幅は、片側延長80m毎に1箇所測定。 ※両端部2点で測定する。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t 未満あるいは施工面積が2000㎡未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X 10) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	10-2-4
幅は、片側延長80m毎に1箇所の割で測定。厚さは、片側延長200m毎に1箇所コアを採取して測定。		10-2-4

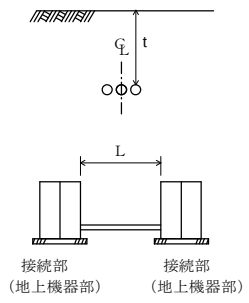
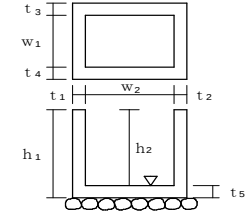
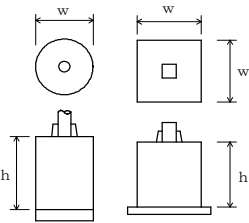
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道 路 編	2 舗 装	5 排 水 構 造 物 工	9		排水性舗装用路肩排水工	基 準 高 ▽	± 30
						延 長 L	-200
10 道 路 編	2 舗 装	7 踏 掛 版 工	4		踏掛版工 (コンクリート工)	基 準 高	± 20
						各 部 の 厚 さ	± 20
						各 部 の 長 さ	± 30
					(ラバーシュー)	各 部 の 長 さ	± 20
						厚 さ	—
					(アンカーボルト)	中 心 の ず れ	± 20
						ア ン カ ー 長	± 20
10 道 路 編	2 舗 装	9 標 識 工	4	1	大型標識工 (標識基礎工)	幅 w_1, w_2	-30
						高 さ h	-30
10 道 路 編	2 舗 装	9 標 識 工	4	2	大型標識工 (標識柱工)	設置高さ H	設計値以上

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		10-2-5-9
1箇所／1施工箇所		
1箇所／1踏掛版		10-2-7-4
1箇所／1踏掛版		
1箇所／1踏掛版		
全数		
全数		
全数		10-2-9-4
基礎一基毎		
1箇所／1基		10-2-9-4

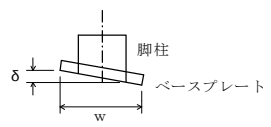
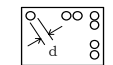
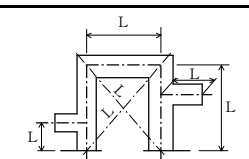
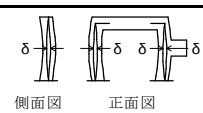
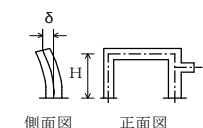
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道 路 編	2 舗 装	12 道路付 属施設 工	5	1	ケーブル配管工	埋 設 深 t	0～+50
						延 長 L	-200
10 道 路 編	2 舗 装	12 道路付 属施設 工	5	2	ケーブル配管工 (ハンドホール)	基 準 高 ∇	±30
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20
						※幅 w_1, w_2	-30
						※高さ h_1, h_2	-30
10 道 路 編	2 舗 装	12 道路付 属施設 工	6		照明工 (照明柱基礎工)	幅 w	-30
						高 さ h	-30

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
接続部間毎に1箇所 接続部間毎で全数		10-2-12-5
1箇所毎 ※印は、現場打ちのある場合		10-2-12-5
1箇所／1施工箇所		10-2-12-6

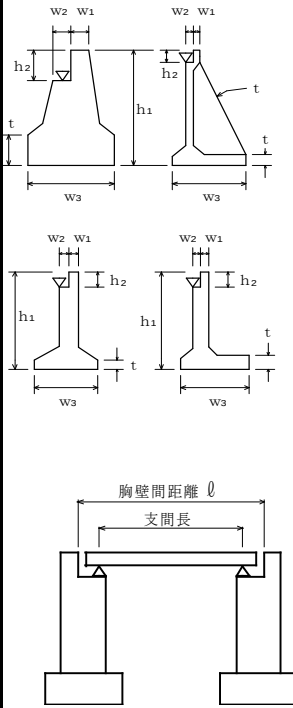
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	
10 道 路 編	3 橋 梁 下 部	3 工 場 製 作 工	3		鋼製橋脚製作工	部 材	脚柱とベースプレートの鉛直度 δ (mm)	w/500	
							ベ ー ス プ レ ー ト	孔の位置	± 2
								孔の径 d	0 ～ 5
						仮 組 立 時	柱の中心間隔、 対角長 L (m)	±5... L 10m ±10... 10<L≤20m ±(10+(L-20)/10)... 20m<L	
							はりのキャンバー 及び柱の曲がり δ (mm)	L/1,000	
							柱 の 鉛 直 度 δ (mm)	10… H≤10 H… H>10	

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
各脚柱、ベースプレートを測定。		10-3-3-3
全数を測定。		10-3-3-3
全数を測定。		
両端部及び片持ばり部を測定。		10-3-3-3
各主構の各格点を測定。		10-3-3-3
各柱及び片持ばり部を測定。 H：高さ (m)		10-3-3-3

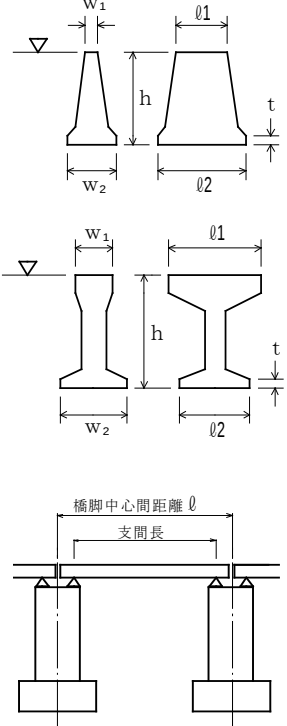
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 橋 台 工	8		橋台躯体工	基 準 高 ∇	± 20
						厚 さ t	-20
						天 端 幅 w_1 (橋軸方向)	-10
						天 端 幅 w_2 (橋軸方向)	-10
						敷 幅 w_3 (橋軸方向)	-50
						高 さ h_1	-50
						胸壁の高さ h_2	-30
						天 端 長 ℓ_1	-50
						敷 長 ℓ_2	-50
						胸壁間距離 ℓ	± 30
						支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50
					支 承 部 ア ン カ ー ボ ル ト の 箱 抜 き 規 格 値	計 画 高	+10～-20
						平 面 位 置	± 20
						アンカーボルト孔の 鉛直度	1/50以下

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、 その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支 承便覧」による。		10-3-6-8

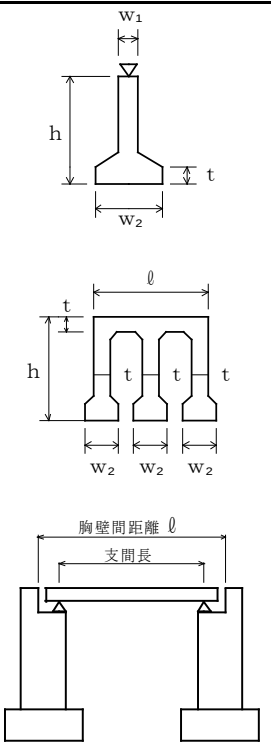
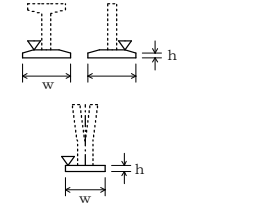
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道 路 編	3 橋 梁 下 部	7 R C 橋 脚 工	9	1	橋脚躯体工 (張出式)	基 準 高 ▽	± 20
						厚 さ t	-20
						天 端 幅 w_1 (橋軸方向)	-20
						敷 幅 w_2 (橋軸方向)	-50
						高 さ h	-50
						天 端 長 ℓ_1	-50
						敷 長 ℓ_2	-50
						橋脚中心間距離 ℓ	± 30
						支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50
					支 承 部 アンカー ボルトの 箱抜き 規格値	計画高	+10～-20
						平面位置	± 20
						アンカーボルト孔の 鉛直度	1/50以下

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、 その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支 承便覧」による。		10-3-7-9

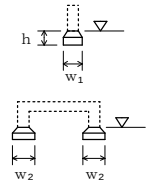
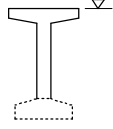
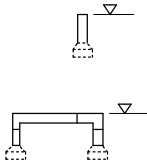
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道路編	3 橋梁下部	7 RC橋脚工	9	2	橋脚躯体工 (ラーメン式)	基 準 高 ∇	± 20
						厚 さ t	-20
						天 端 幅 w_1	-20
						敷 幅 w_2	-20
						高 さ h	-50
						長 さ ℓ	-20
						橋脚中心間距離 ℓ	± 30
						支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50
					支 承 部 ア ン カ ー ボ ル ト の 箱 抜 き 規 格 値	計画高	+10～-20
						平面位置	± 20
						アンカーボルト孔の 鉛直度	1/50以下
10 道路編	3 橋梁下部	8 鋼製橋脚工	9	1	橋脚フーチング工 (I型・T型)	基 準 高 ∇	± 20
						幅 (橋軸方向) w	-50
						高 さ h	-50
						長 さ ℓ	-50

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、 その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支 承便覧」による。		10-3-7-9
		10-3-8-9

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道 路 編	3 橋 梁 下 部	8 鋼 製 橋 脚 工	9	2	橋脚フーチング工 (門型)	基 準 高 ∇	± 20
						幅 w_1, w_2	-50
						高 さ h	-50
10 道 路 編	3 橋 梁 下 部	8 鋼 製 橋 脚 工	10	1	橋脚架設工 (I型・T型)	基 準 高 ∇	± 20
						橋脚中心間距離 ℓ	± 30
						支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50
10 道 路 編	3 橋 梁 下 部	8 鋼 製 橋 脚 工	10	2	橋脚架設工 (門型)	基 準 高 ∇	± 20
						橋脚中心間距離 ℓ	± 30
						支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50
10 道 路 編	3 橋 梁 下 部	8 鋼 製 橋 脚 工	11		現場継手工	現場継手部のすき間 $\delta 1, \delta 2$ (mm)	5 ※ ± 5

単位：mm

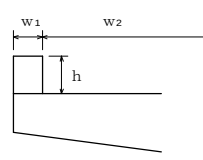
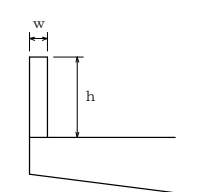
測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、 その他は寸法表示箇所。		10-3-8-9
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、 その他は寸法表示箇所。		10-3-8-10
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、 その他は寸法表示箇所。		10-3-8-10
主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 ※は耐候性鋼材（裸使用）の場合		10-3-8-11

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
10 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	9		橋梁用高欄製作工	部材	部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \cdots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots$ $\ell > 10$
10 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	5 鋼 橋 架 設 工	10	1	支承工 (鋼製支承)	据付け高さ 注1)		± 5
						可動支承の移動 可能量 注2)		設計移動量 +10以上
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)		± 5 $4 + 0.5 \times (B - 2)$
						水下 平 沓 の	橋軸方向	1 / 100
							橋軸直角方向	
						可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差		5
10 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	5 鋼 橋 架 設 工	10	2	支承工 (ゴム支承)	据付け高さ 注1)		± 5
						可動支承の移動 可能量 注2)		設計移動量 +10以上
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)		± 5 $4 + 0.5 \times (B - 2)$
						支 平 度 の 水	橋軸方向	1 / 300
							橋軸直角方向	
						可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差		5
10 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	5 鋼 橋 架 設 工	10	2	支承工 (ゴム支承)	可動支承の移動 可能量 注3)		温度変化に伴う移 動量計算値の1/2 以上

測 定 基 準			測 定 箇 所		摘 要
図面の寸法表示箇所で測定。					10-4-3-9
支承全数を測定。 B：支承中心間隔 (m) 支承の平面寸法が300mm以下の場合は、 水平面の高低差を1mm以下とする。な お、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1) 先固定の場合は、支承上面で測定 する。 注2) 可動支承の遊間 (La,Lb) を計測 し、支承据付時のオフセット量 δ を考慮 して、移動可能量が道路橋支承便覧の規 格値を満たすことを確認する。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設完 了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。					10-4-5-10
支承全数を測定。 上部構造部材下面とゴム支承面との接触 面及びゴム支承と台座モルタルとの接触 面に肌すきが無いことを確認。 支承の平面寸法が300mm以下の場合は、 水平面の高低差を1mm以下とする。な お、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1) 先固定の場合は、支承上面で測定 する。 注2) 可動支承の遊間 (La,Lb) を計測 し、支承据付時のオフセット量 δ を考慮 して、移動可能量が道路橋支承便覧の規 格値を満たすことを確認する。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設完 了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。					10-4-5-10

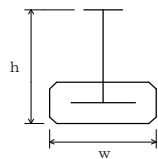
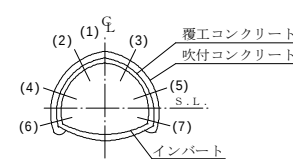
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	3		落橋防止装置工	アンカーボルト孔の削孔 長	設計値以上
						アンカーボルト定着長	−20以内 かつ −1D以内
10 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	5		地覆工	地覆の幅 w_1	−10～+20
						地覆の高さ h	−10～+20
						有効幅員 w_2	0～+30
10 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	6 7		橋梁用防護柵工	幅 w	−5～+10
					橋梁用高欄工	高 さ h	−20～+30
10 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	8		検査路工	幅	±3
						高 さ	±4

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
全数測定		10-4-8-3
全数測定 D：アンカーボルト径（mm）		
1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		10-4-8-5
1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		10-4-8-6 10-4-8-7
1 ブロックを抽出して測定。		10-4-8-8

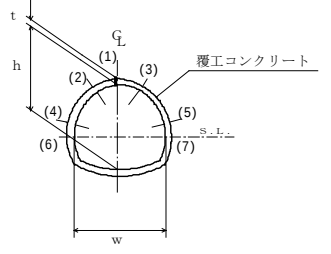
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道 路 編	5 コン クリ ート 橋 上 部	6 プレ ビー ム 桁 橋 工	2		プレビューム桁製作工 (現場)	幅 w	± 5
						高 さ h	10 -5
						桁 長 ℓ スパン長	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots$ $\pm (\ell - 5)$ か つ - 30mm以内
						横方向最大タワミ	0.8 ℓ
10 道 路 編	6 トン ネル (N A T M)	4 支 保 工	3		吹付工	吹 付 け 厚 さ	設計吹付け厚以 上。ただし、良好 な岩盤で施工端 部、突出部等の特 殊な箇所は設計吹 付け厚の1/3以 上を確保するもの とする。
10 道 路 編	6 トン ネル (N A T M)	4 支 保 工	4		ロックボルト工	位 置 間 隔	—
						角 度	—
						削 孔 深 さ	—
						孔 径	—
						突 出 量	プレート下面 から10cm以内

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシ ング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部 の3箇所とする。 ℓ ：スパン長		10-5-6-2
施工延長40m毎に図に示す。 (1)～(7)及び断面変化点の検測孔を測 定。 注) 良好な岩盤とは、道路トンネル技術 基準（構造編）にいう地盤等級A又はB に該当する地盤とする。		10-6-4-3
施工延長40m毎に断面全本数検測。		10-6-4-4

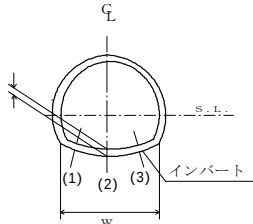
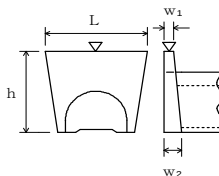
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道 路 編	6 トンネル (N A T M)	5 覆 工	3		覆工コンクリート工	基準高▽ (拱頂)	± 50
						幅 w (全幅)	-50
						高さ h (内法)	-50
						厚 さ t	設計値以上
						延 長 L	—
10 道 路 編	6 トンネル (N A T M)	5 覆 工	5		床版コンクリート工	幅 w	-50
						厚 さ t	-30

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
(1) 基準高、幅、高さは、施工40mにつき1箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を1打設長の終点を図に示す各点で測定。中間部はコンクリート打設口で測定。 (ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて1打設長の端面（施工継手の位置）において、図に示す各点の巻厚測定を行う。 (ハ) 検測孔による巻厚の測定は図の(1)は40mに1箇所、(2)～(3)は100mに1箇所の割合で行う。 なお、トンネル延長が100m以下のものについては、1トンネル当たり2箇所以上の検測孔による測定を行う。 ただし、以下の場合には、左記の規格値は適用除外とする。 ・良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の3分の1以下のもの。 なお、変形が収束しているものに限る。 ・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認されかつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。 ・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。		10-6-5-3
施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		10-6-5-5

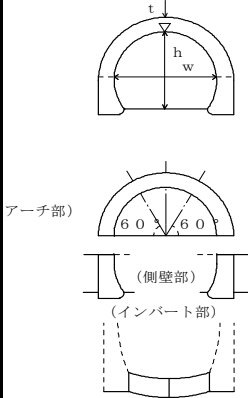
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
10 道 路 編	6 ト ン ネ ル （ N A T M ）	6 イ ン バ ー ト 工	4		インバート本体工	幅 w （全幅）	-50	
						厚 さ t	設計値以上	
						延 長 L	—	
10 道 路 編	6 ト ン ネ ル （ N A T M ）	8 坑 門 工	4		坑門本体工	基 準 高 ∇	± 50	
						幅 w_1, w_2	-30	
						高 さ h	$h < 3 \text{ m}$	-50
							$h \geq 3 \text{ m}$	-100
						延 長 L		-200

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
(1) 幅は、施工40mにつき1箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を1打設長の中間と終点を図に示す各点で測定。 (ロ) コンクリート打設後、インバートコンクリートについて1打設長の端面（施工継手の位置）において、図に示す各点の巻厚測定を行う。		10-6-6-4
図面の主要寸法表示箇所で測定。		10-6-8-4

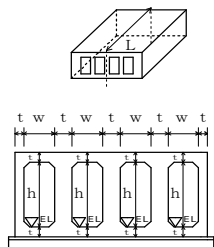
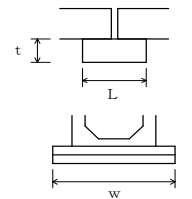
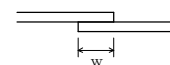
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道 路 編	6 ト ン ネル (N A T M)	8 坑 門 工	5		明り巻工	基準高▽ (拱頂)	± 50
						幅 w (全幅)	-50
						高さ h (内法)	-50
						厚 さ t	-20
						延 長 L	—

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高、幅、高さ、厚さは、施工延長40mにつき1箇所を測定。 なお、厚さについては図に示す各点⑩において、厚さの測定を行う。		10-6-8-5

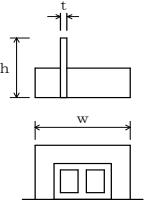
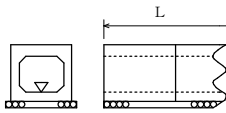
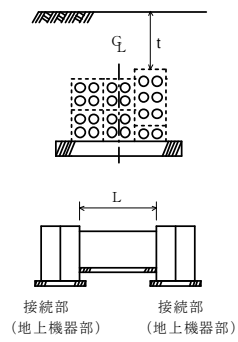
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道路 編	11 共同 溝	6 現場 打構 築工	2		現場打躯体工	基 準 高 ∇	± 30
						厚 さ t	-20
						内 空 幅 w	-30
						内 空 高 h	± 30
						ブロック長 L	-50
10 道路 編	11 共同 溝	6 現場 打構 築工	4		カラー継手工	厚 さ t	-20
						幅 w	-20
						長 さ L	-20
10 道路 編	11 共同 溝	6 現場 打構 築工	5	1	防水工 (防水)	幅 w	設計値以上
10 道路 編	11 共同 溝	6 現場 打構 築工	5	2	防水工 (防水保護工)	厚 さ t	設計値以上

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所にて測定。		10-11-6-2
図面の寸法表示箇所にて測定。		10-11-6-4
両端・施工継手箇所の底版・側壁・頂版にて測定。		10-11-6-5
両端・施工継手箇所の「四隅」にて測定。		10-11-6-5

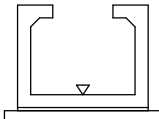
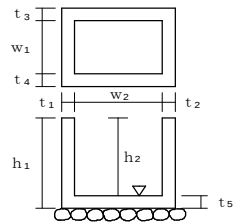
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道 路 編	11 共 同 溝	6 現 場 打 構 築 工	5	3	防水工 (防水壁)	高 さ h	-20
						幅 w	± 50
						厚 さ t	-20
10 道 路 編	11 共 同 溝	7 プ レ キ ャ ス ト 構 築 工	2		プレキャスト躯体工	基 準 高 ▽	± 30
						延 長 L	-200
10 道 路 編	12 電 線 共 同 溝	5 電 線 共 同 溝 工	2		管路工 (管路部)	埋 設 深 t	0～+50
						延 長 L	-200

単位：mm

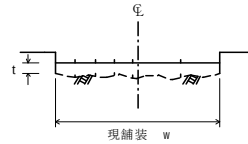
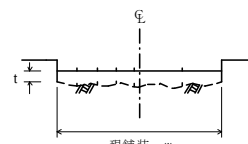
測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の寸法表示箇所にて測定。		10-11-6-5
施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。ただし、基準高の適用は据付後の段階検査時のみ適用する。 延長：1施工箇所毎		10-11-7-2
接続部（地上機器部）間毎に1箇所。 接続部（地上機器部）間毎で全数。 【管路センターで測定】		10-12-5-2

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道 路 編	12 電 線 共 同 溝	5 電 線 共 同 溝 工	3		プレキャストボックス工 (特殊部)	基 準 高 ▽	± 30
10 道 路 編	12 電 線 共 同 溝	6 付 帯 設 備 工	2		ハンドホール工	基 準 高 ▽	± 30
						※厚 さ $t_1 \sim t_5$	-20
						※幅 w_1, w_2	-30
						※高 さ h_1, h_2	-30

単位：mm

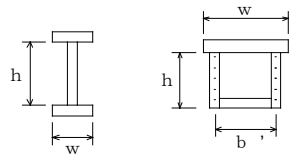
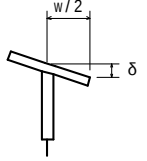
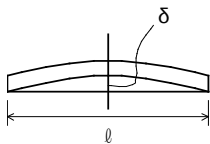
測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
接続部（地上機器部）間毎に1箇所。		10-12-5-3
1箇所毎 ※は現場打部分のある場合		10-12-6-2

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	
							個々の測定値 (X)	平均の測定値 ($\bar{X}_{10}$)
10 道 路 編	14 道 路 維 持	4 舗 装 工	5		切削オーバーレイ工	厚さ t	-9	
						幅 w	-25	
						延長 L	-100	
						平 坦 性	—	3m ² プロファイルメータ (σ) 2.4mm以下 直読式 (足付き) (σ) 1.75mm以下
10 道 路 編	14 道 路 維 持	4 舗 装 工	7		路上再生工	厚さ t	-30	
						幅 w	-50	
						延長 L	-100	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
厚さは40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、延長40m未満の場合は、2箇所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。	 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	10-14-4-5
幅は延長80m毎に1箇所の割で測定。厚さは、各車線200m毎に左右両端及び中央の3点を掘り起こして測定。		10-14-4-7

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道 路 編	16 道 路 修 繕	3 工 場 製 作 工	4		桁補強材製作工	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b' (m)	$\pm 2 \dots w \leq 0.5$ $\pm 3 \dots 0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \dots 1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w/2) \dots 2.0 < w$
						フランジの直角度 δ (mm)	$w/200$
						圧縮材の曲がり δ (mm)	$\ell/1000$

単位：mm

測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要
鋼桁等	トラス・アーチ等		
主桁・主構	各支点及び各支間中央付近を測定。	 I 型鋼桁 トラス弦材	10-16-3-4
床組など	構造別に、5 部材につき 1 個抜き取った部材の中央付近を測定。		
主桁	各支点及び各支間中央付近を測定。		10-16-3-4
—	主要部材全数を測定。 ℓ ：部材長 (mm)		10-16-3-4